

目標と、評価と、環境と

～子どもたちの育ちとともに～

学校は、子どもの実態をもとに教育目標を設定し、その実現に向け、さまざまな角度から取組を行います。

今回は、具体的な目標を例にして、その一端を紹介しします。

目標の一つに、『国語・算数・理科における単元末テスト結果（“思考・判断・表現”の観点）が、自分で決めた目標点以上である児童94%以上』という項目があります。ここに、「自分で決めた」とありますが、これは、子ども本人が、前年度やこれまでの学習状況を振り返り、担任と一緒に自己の目標点を決定するもので、いい加減なものではないわけです。

1学期末の結果は、国語については目標点以上が100%となり、全ての児童が自己目標点を達成することができました。一方、算数は92%、理科は83%であり、学校としてめざしていた94%を下回りました。

しかしながら、子どもが自分で目標点を定めることから、比較的高く設定する傾向の子どももいて、現実の純粋な点数の平均で言えば、国語・算数・理科とも90点以上となり、全体的に学びが定着していることが伺えます。

このことは、自己目標点を設定したことにより、子ども自身が達成に向けて頑張ってきたことの証左とも言えます。

目標点を決定する以外にも、子どもたちが書いたり発表したりする場の積極的な設定、木・金曜日の朝の時間を使った国語や算数の補充学習の実施、授業の質の向上に向けた校内研究等、子ども一人一人に寄り添ったさまざまな組織的な取組が、結果につながっているものと思われます。

子ども一人一人に対して、より丁寧に、またよりきめ細かく寄り添い、目標に向かって取り組める小規模校のよさでもあり、強みとも言えます。

余談ですが、ある学年の理科の目標点を設定した時のことです。一般的には平均80点以上と思うところ、子どもたちから90点や91点を目標点に掲げる声があがります。教師が「もうちょっと下げてみたらどう？」と投げかけます。すると、子どもたちは、「いや、91点でよいです！」ときっぱり。子どもたちも、高い点にもかかわらず譲りません。子どもたちのやる気の高さを見た思いです。

今回は、残念ながら88点で、目標点には届かなかったものの、内心子どもたちのやる気と頑張りには拍手を送りたいものです。

子どもたちの頑張りや考え方のもといは、学校だけで負えるものではありません。日頃の頑張りを支え、認め、協力してくださる保護者や地域の皆様など、大田小を取り巻く環境のよさも忘れてはならないものです。子どもの育ち

を大きく後押ししていただいていることに、改めて感謝申し上げます。

二つ目は、『児童アンケート“相手の気持ちを考え、よりよい言葉を使うことができた”と回答する児童85%以上』という徳育についてのものです。

1学期末の児童アンケート結果は、肯定的回答が95%で、上記の目標をクリアしました。

友達の素敵な姿を見つけたら、カードに記入し掲示をしていく取組を行ったり、子どもたち同士のよりよい人間関係を育む人間関係づくりプログラムやソーシャルスキルトレーニング(SST)を定期的実施したりしてきたことが、功を奏したのではと思います。

一方、保護者アンケートでは、“お子様は、ご家庭や地域で、相手の気持ちを考え、よりよい言葉を使って話している”の結果を見ると、肯定的回答は児童アンケートに比べ、やや低くなりました。

このことから、2学期は、学校はもとより、家でも地域でも、よりよい言葉遣いで話せる子どもの育成をめざし、「いつでも・どこでも・だれにでも」をキーワードに、児童会を中心に取組を進めていくことになりました。



〈人間関係づくりプログラムの様子〉 〈SSTの様子〉

三つ目は、『児童アンケート“進んで運動や体力づくりに取り組んだ”の肯定的回答が85%以上』という体力についてのものです。

1学期の児童アンケート結果は、肯定的回答が100%で、85%を上回りました。1学期は、火曜朝設定のフィジカルトレーニングをはじめ、中休みに一輪車やサーキットに取り組むチャレンジタイム等、子どもたちの頑張りが見られました。

2学期は、運動会もあり、1学期の取り組みに加え、健康づくりにおける取組を、保護者の皆様と連携・協力しながら取り組んでまいりたいと思います。

